

平成19年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成19年9月27日(木)
午後2時00分～午後4時00分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 16A会議室
- 3 出席委員 13名
廣瀬委員長, 綱河副委員長, 高橋委員, 石嶋委員, 櫛淵委員,
山野井委員, 若度委員, 伊藤委員, 奥田委員, 贅田委員
松江委員, 吉野委員, 塚田典功委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開

5 傍聴者 1名

6 議 事

(1) 報告事項

- ①平成19年度関東甲信越静社会教育研究大会について
- ②(仮称)親力向上支援プランの検討状況について

(2) 協議事項

- ①成人式について

7 その他

8 閉会

9 発言の要旨

廣瀬委員長

それでは、会議次第に基づき、本日の議事を進めてまいります。
まず、報告事項の①「平成19年度関東甲信越静社会教育研究大会について」ですが、大会の概要について事務局からの説明の後、大会に参加した綱河委員、吉野委員から感想などを報告いただきたいと思います。
それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

【説明】

廣瀬委員長

次に、綱河委員から報告をお願いします。

綱河委員

先ほど、事務局から研究大会の全体の概要の報告がありましたが、研修

の成果、感想などを報告させていただきます。

私は、第2分科会「次代を担う青少年の育成」に参加いたしましたが、基調講演、記念講演についても代表して報告させていただきます。

まず、基調講演ですが、資料の4ページをお開きください。

茨城大学生涯学習センター准(じゅん)教授の長谷川 幸介(こうすけ)氏のプロフィールをご覧ください。長谷川氏は、永い間、自治会長や子ども会の役員をやった経験が有り、車の運転ができないのでリヤカーを購入してもらい、廃品回収などを自ら行なったとのことでした。

長谷川氏は、ユーモアたっぷりの話し方で、たびたび会場を爆笑のうず巻き込みました。

長谷川氏の講演は、レジュメは用意されませんでした。板書しながらステージ狭しと、精力的に歩き回りながらの講演でした。はじめの切り口が、一般に「大学の先生は、だれもが知っていることを、知らない言葉で話す。」と言って笑いを取ってから、分かり易い自分自身の経験談を交え、いつのまにか演題の「生涯学習の新しい戦略と社会委員の役割」について説明しているといった手法はお見事でした。

長谷川氏が、社会教育を専攻したきっかけとなったのが岩手県早池峰(はやちね)村で開催された薪能(たきぎのう)の合間に披露される「鬼のあら舞い」を見て感動したことと、認知症になったお母様を亡くなるまで地域の方々、交代でお世話してくれたことだそうです。

「鬼のあら舞い」は、坂上田村麿(さかのうえたむらまろ)の時代にさかのぼりますが、新しい文化と古い文化がぶつかり、ふるさとの品格を保つために戦っている様子を表しているとのことでした。

長谷川氏のお母様は、民生委員と保護司をやっていたそうで、毎日、近所の方々が交代で話を聞きに来てくれたり、散歩にもつきあってくれたそうです。一人で歩けば徘徊になりますが、お母様の場合は、自分では民生委員、保護司の意識のまま亡くなったそうで、大変、ご近所の方々には感謝しているそうです。

まとめとしましては、私の主観が少し入りますが、人はひとりでは生きていけない。自然に適応してきた。改革してきた第2の自然を社会と呼び、社会改革のルール作り、橋渡し役をするのが、社会教育委員の役割ではないか。というものでございました。

次に、記念講演について、簡単に報告させていただきます。

資料の13、14ページをお開きください。

元文部大臣の有馬朗人(ありま あきと)氏の「日本の教育の優れている点と問題点」と言う演題でございました。

14ページのレジュメに添って、プロジェクターを使い、諸外国と比較しながら、数字的な説明を加えるものでしたが、残念ながら、私たち3人の席からは、写された映像のグラフや一覧表が細かく、ほとんど判読もできない状態でしたので、説明はお許しください。

締めのお言葉は、「先進諸国と比較して、少ない支出で日本の教育はすばらしい実績をあげている。自信をもってください。」でございました。

次に、資料の5, 6, 7, 8ページと、本日お配りしましたA4番一枚の資料をご覧ください。

私が参加しました、第2分科会について報告いたします。

第2分科会は、「次代を担う青少年の育成」というテーマでしたが、昨今の青少年を取り巻く環境の悪化等により、今まで以上にその健全育成が重要課題となっていることを裏付けるように、6つの分科会でもっとも多い240名を超える参加者がありました。

議論の多くは、「通学合宿」について費やされました。

桐生市における取組みが紹介されましたが、その他の多くの自治体からも「通学合宿」を実施している事例が報告されました。

その具体的な実施内容として、合宿の参加者（小学生）の保護者が一緒に参加し、お手伝いをしている自治体もありましたが、親が手を出してしまうため、子どもの自立を図るよう、一切保護者は参加させない自治体もありました。

また、合宿において、キャンドルサービス、カルタ、鳥の巣箱作りなどイベントを盛り込んだ事例、逆に、「通学合宿」は日常の通学と同様に行なうべきであり、特別なイベントは行なっていないという事例も報告されました。

さらに、この合宿は、「子どもの居場所作り」ともとらえられるという見解がある自治体から発表されましたが、親と子の関係をより強めていくことが重要であり、宇都宮市においては、今後、十分に調査、研究、検討するべき事業と考えます。

以上、私の報告とさせていただきます。

廣瀬委員長

すばらしい発表でした。ありがとうございました。次に、吉野委員から報告をお願いします。

吉野委員

私が参加しました第6分科会「生涯学習の場を広める方策」について、報告いたします。今回、初めて勉強のために大会に参加させていただきました。資料の9ページから12ページとA4版1枚のものをご覧ください。二つの事例発表がありましたが、まず、長野県伊那市の「はなまる地域探検隊」について報告します。ネーミングが面白いのですが「はなまる」は、頭文字を集めたもので「は」は、発見の「は」、 「な」は、仲間とともにの「な」、 「ま」は、学び合うの「ま」、 「る」は、ルネッサンスの「る」ということでした。

「はなまる探検隊」は、地域の子育て教育活動の一環として、奉仕活動や体験活動を実施していましたが、私の感想などを申し上げますと、まず、子どもたちが「自分から学ぶ行動をする力」を大切にしていると思ひ

ました。無理のない実施計画を立て、参加できる時、参加できる時間だけ高校生や一般のスタッフが協力しておりました。

次に、活動内容にストーリー性があると思いました。興味が次に、つながる内容になっておりました。

次に、活動内容が地域の人々に密着しておりましたので、結果的に講師謝金等の活動経費を節約しておりました。

また、社会教育委員自身が活動の中心になっておまして、講座の講師を務めることも多いそうです。

以上、「はなまる探検隊」について申し上げましたが、地方だから、地域の特徴があつてこそ成功しているケースかもしれないとも思いました。

次に、二つ目の事例発表の静岡県沼津市についてですが、主に社会教育委員の活動内容と地域コミュニティが中心になりました。

私の感想を申し上げますと、まず、コミュニティのあり方が難しいと思いました。小、中学校は学校が単位になりますが、高校から社会人は地域という大きな区切りになります。

沼津市は、社会教育委員の活動が活発で毎年、市からテーマが提示され、月1回のペースで会議を持っています。これ以上、会議の回数を増やすことは難しいと思いますが、事前にテーマの提示はあった方がよいと思いました。

二つの事例発表の後、質疑応答がございまして、次のような三つの意見に集約することができました。

一つ目は、社会人、特に退職者をどう取り込むかです。ポイントは、自主的にできる内容を自分で企画させること。二つ目は、小さな提案をし、費用的に取組みやすいことから始めること。三つ目は、社会教育委員の会議の元に地域教育を充実させることでした。以上のような、意見が出ました。短い時間でしたが活発な分科会でした。これで、私の報告とさせていただきます。

廣瀬委員長

ありがとうございました。お二人とも、報告会として別に実施していただきたいようなすばらしい内容でした。行政の方も含めて、ご質問などありましたらどうぞ。

楠淵委員

参考ですが、私の宮の原地区では、まちづくり協議会と連携して様々な事業を進めており、会場、講師の選定など、費用面で安く上げることができます。

廣瀬委員長

宮の原地区の取組みは進んでおります。この件につきましては、以上でよろしいでしょうか。綱河委員、吉野委員大変お疲れ様でした。

次に、報告事項の②「(仮称)親力向上支援プランの検討状況について」を事務局から説明願います。

事務局	【説明】
廣瀬委員長	<p>ただ今の説明につきまして、ご意見があればお願いします。</p> <p>母親に責任を集中せず、家庭や親を取り巻く環境づくりについてもきちんと書かれているので安心できます。特に、企業にまで踏み込んだ点では、素晴らしいと思います。</p>
吉野委員	<p>資料の26ページの事業の中に、親になる前の妊娠期の事業はありますか。父親、母親になる心構えを教えるのに、子どもが生まれる前の方が素直に受け止められると思います。</p> <p>次に資料の24ページのデータについてですが、子育てについての情報源は、口コミ、相対が多くなっておりませんが、小さい単位で話を聞く機会があっても良いのではないかと思います。一方的な「たより」については、読者の欲しい情報とのズレはないか検討して欲しいと思います。</p>
事務局	<p>子どもが生まれる前の取り組みとしては、保健センターの「ママパパ学級」や一部の生涯学習センターで行なっている家庭教育講座があります。</p> <p>保護者が交流する事業として、子育てサロン、生涯学習センターの「子育て広場」、子どもの家の午前中の時間帯を利用した地域の乳幼児親子の居場所的な事業があります。</p> <p>委員のおっしゃるとおり、相対した交流の機会というのは非常に有効であると考えております。</p>
若度委員	<p>行政のアンケートに答えられる親は問題ないと思います。</p> <p>大半の親は、一般的な常識を持っています。行政には、数パーセントの問題のある親に対して重点的に取組んでいただきたいと思います。</p>
廣瀬委員長	<p>家庭教育支援は、親の、子どもや周囲の人とのコミュニケーションの機会ということであると思います。</p>
石嶋委員	<p>個人主義、家庭主義にかたより、我が子については、体感マナーの悪さや、社会にどれだけ迷惑を掛けているか分からない親がいます。</p>
山野井委員	<p>子どもばかりに焦点を当てがちですが、大上段に構えずとも、費用を掛けずとも、子どもの家、放課後子ども教室等へ参加すれば大人同士の交流にもなり勉強にもなります。</p> <p>地域の人を集めて少しずつでも交流していけると良いと思います。</p>
塚田典功委員	<p>「こんにちは、赤ちゃん事業」の取り組みについて進捗状況を伺いたいと思います。</p>

次に、放課後こどもプランについてですが、NHKの番組「ようこそ先輩」の先生は、経験と知識があるので魅力的ですが、街の先生、ロータリー人材バンク等の地域の人材を活用して、時間に拘束されない、頭でっかちでない、ふれあいづくりを教育現場で行なってほしいと思います。

事務局

昨年度までは、新生児訪問として生後1, 2ヶ月児を持つご家庭のうち、希望者のお宅を訪問していましたが、今年度から新たに始まりました「こんにちは赤ちゃん事業」については、対象者を生後4ヶ月まで拡大して、助産師や看護師を派遣するものと聞いております。訪問件数が非常に多く、派遣する助産師や看護師の確保が課題であると聞いておりますが、所管が異なるため、実績件数等については分かりません。

高橋委員

中学生になると、自分のことは自分でできるため、保護者がパートに出てしまいます。保護者が、学校に来なくなる傾向にあります。親子除草の参加者が70パーセントを切っている状況です。子どもが小さいうちに、育児に関心があるうちに、親には学んでほしいと思います。

地域のフェスティバルに、参加するような親子は問題ありません。聞いて欲しい親は、聞いてくれません。いかにして、学校に来てもらうかが問題です。

賛田委員

ごえもんと言う「みんなの居場所」のお店をやっています。3年目で見えてきたものがあります。子どもを誘うと親も出てくるようになりました。5年を目途にやっています。地域で千円ずつ出し合ってごえもんを応援しようという、地域で子どもやお年寄りのめんどうを見ようという動きにもなっています。

人集めは、考え方を柔軟にすると良いのではないのでしょうか。

網河委員

賛田さんの自治会は、まとまっています。親、学校、行政が一つの目標に向かって進むことが成果になると思います。そこまで持っていくのは大変なことです。他人に責任転嫁するのは簡単です。

廣瀬委員長

地域の雰囲気がいいと、問題のある親はいなくなります。問題のある親がいるのは、私たちの責任とも言えます。

松江委員

役員になるのが大変なので、子ども会に入る親が減っています。吸引力のある企画を立てると良いと思います。子ども会や魅力ある学校づくり地域協議会、まちづくり協議会など、大人が集まると大人同士の学びあいになり、成長し合えます。

奥田委員

私の地域では、3年前のふるさと教室などに子どもたちが集まりました。

今は、少ない子どもを行事ごとに取りっこしている状況です。子どもたちは忙しすぎます。行事に出てくるような親の子どもしか来ません。

伊藤委員

問題は、地域です。すべての事業にまちづくり協議会の冠をかぶせて、地域全体で取り組むと良いと思います。私の地域では、体育祭に体協50周年の記念事業として文星芸大附属高の吹奏楽団が来てくれます。敬老会では、小学生の作文発表や公民館自主サークルなどの協力があり、地域全体で取り組むことが、地域の教育力を上げることになると思います。

廣瀬委員長

この件につきましては、以上でよろしいでしょうか。それでは、次に、協議事項の①「成人式について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

事務局

【説明】

松江委員

成人式に、実行委員として参加しております。成人式は同窓会的になっていますが、恩師に会い、旧交を温めることを問題視しなくて良いと思います。地域の人たちが見守っているから、大騒ぎにもならないのだと思います。

中学時代にいじめられていた子が、クラスの席に座れず孤立していましたが、友達が誘いに来てくれて集合写真には入れました。クラスごとでない席も必要かと思います。

現状では、ホテル開催も良いと思いますし、親学を取り入れたら良いと思います。

伊藤委員

星が丘中学校区で、宇大附属中が別にやりたいという意見があると聞きました。

若度委員

宇大附属中では、成人式会場は星が丘中と同じ所で、懇親会だけ別にして欲しいというものでした。

櫛淵委員

参加目的が、友人、恩師に会いたいということでしたら、中学校の体育館で実施してはどうでしょうか。

若度委員

私の時代は、小学校の体育館でした。体育館のときは、会場がざわざわしていました。小学校になると、数が多すぎてまとまりがつかないと思います。

高橋委員

清原中学校区は、宇都宮海星女子学院中学校もあり、一緒に卒業生も先生にも参加してもらっています。実施委員にも入ってもらっていますが、

反対の声は、聞こえてきません。

石嶋委員 実施委員長や来賓として成人式に係わりましたが、今のやり方でよいと思います。ホテルは、暖かいし準備が楽です。学校の体育館は、前日から準備しなくてはなりませんでした。ホテルでは、歓迎体制に集中できます。

吉野委員 宇大附属中については、本当に子どもたちが附属中だけ別にやりたいと願っているかは疑問です。
運営の仕方を考えればよいと思います。大人になったのですから、自分たちの楽しみは自分たちで企画すべきです。

若度委員 宇大附属中については、親の意見だと思えます。今のやり方は、悪くないと思います。ばらばらにやっている感じがしますので、学校が違っても、共通のテーブルに着けるような取り組みがあると良いと思います。

松江委員 式典の約20分間を、どうもたせるかが問題です。

高橋委員 午後の成人式では、酒を飲んでくる新成人もおり、ホテル会場の問題もありますが、できればすべて午前中に実施してほしいと思います。

塚田典功委員 成人の意義をきちんと伝えるようなもので、全部の会場でビデオを流す企画を是非、実施して欲しいと思います。できるならば、代理者が祝辞を代読するのではなく、市長メッセージを上映して欲しいと思います。
ジュニア未来議会で提案のあった親学を取り入れることも、検討していただきたいと思います。

奥田委員 午後の成人式は、女性の新成人にとっては楽だったという話がありました。午後ですと引きが早く、実施委員としては助かります。

綱河委員 社会の中での責任を自覚するような、成人式の教育的効果の原点は、はずしてはならないと思います。時代の流れによってやり方を考えて、感動、感謝等の映像について検討して欲しいと思います。成人式の運営は、地域の実施委員会の発想に任せるべきです。教育委員会では、情報提供はすべきだと思います。

事務局 私立中の作新学院中等部の件ですが、陽西中学校区になっております。作新の卒業生だけで成人式とは別に、懇親会を実施しております。

廣瀬委員長 ご意見ありがとうございました。税金をかけて成人式を実施する意義を踏まえた企画をお願いすることで協議を終了したいと思います。

委員の皆様から提案などございませんか。なければ、以上をもちまして、社会教育委員の会議を終了いたします。